

2025年度（第43回）「IT賞」でソニー銀行が 「IT賞（経営・業務改革）」を受賞

ソニー銀行株式会社（代表取締役社長：南 啓二 / 本社：東京都千代田区 / 以下 ソニー銀行）は、公益社団法人企業情報化協会（以下 IT協会）が表彰する2025年度（第43回）「IT賞」において、「IT賞（経営・業務改革）」を受賞しましたので、お知らせします。



IT賞は、IT・デジタル技術を活用し、優れた業務改革や社会貢献を実現した企業や団体、機関および個人に対して、IT協会が表彰する制度です。

この度、「ソニー銀行におけるビジネスアジャリティ向上のためのクラウドシフト戦略」を受賞テーマに、2025年5月6日に稼働開始した次世代デジタルバンкиングシステムについて「変化に強い経営基盤」としてのクラウドを構築した点を評価いただきました。

IT賞（経営・業務改革）評価内容

ソニー銀行は、2013年から10年以上にわたり、クラウド技術を基盤とした全方位的なシステム刷新を粘り強く推進し、2025年には世界的にも稀なクラウドネイティブ勘定系システムをAWS上で稼働させた。クラウド利用が慎重にならざるを得ない金融機関において、基幹系までを含む全面的なクラウド化を実現したことは、同社のみならず他の金融機関をも勇気づける先駆的な取組である。

経営層の強いコミットメントのもと、ITシステム刷新を経営戦略の中心に据え、「変化に強い経営基盤」としてのクラウドを構築した点が高く評価される。

旧来の複雑で密結合な勘定系システムを単にクラウドに「載せ替え」たのではなく、マイクロサービス&クラウドネイティブによる簡素な疎結合システムに全面移行した点や、既存システムの保守期限やビジネス継続性を踏まえつつ、周辺系から段階的に移行を進め、技術知見を積み上げながら最終的にクラウドオンリーモードを確立したプロセスは、基幹システム刷新のモデルケースといえる。

本取組により、システム開発やサービス提供のスピードが飛躍的に向上し、環境変化に迅速に対応できる“ビジネスアジャリティ”を実現した。今後、ソニーグループの多様な事業領域と連携し、家電・オーディオ・ゲーム・エンターテインメントなどとのシナジーを活かした「ソニー経済圏」形成を期待する。

クラウド技術を経営変革の中核に位置づけ、金融業界の保守的慣行を打ち破った先進性と実行力を評価し、ソニー銀行の取組をIT賞に値するものと判断した。

表彰制度 IT賞(公益社団法人企業情報化協会のページへリンクします)

<https://jiit.or.jp/awards/it/>

ソニー銀行は、富士通株式会社の勘定系ソリューション「Fujitsu Core Banking xBank (クロスバンク)」(*) を採用したソニー銀行の新勘定系システムにおいて、機能開発への生成AI適用を2025年9月から開始し、2026年4月までにすべての勘定系システムの機能開発に生成AIを適用していく予定です。
次世代デジタルバンキングシステムにより構築したクラウドネイティブな環境を最大限に活用し、生成AIの適用などを通じ、引き続き日本の金融業界におけるAI活用の先進モデルとしての確立を目指します。

(*) クラウドネイティブなアプリケーション構造を持つ銀行勘定系ソリューション。次世代バンキングソリューションとして2018年より開発を行ってきた「FUJITSU Banking as a Service (FBaaS)」を、ソリューションパッケージ化したもの。

以上